

財団だより

多摩川

1993.12 第60号



ウグイ (コイ科)
上流部から下流部にかけて広く分布する。



■多摩川現風景■

(16) 多摩川のワンド

調布市染地2丁目地先の多摩川に巨大なワンドが出現した。「ワンド」とは「湾処」と表現される場合もあるが、治水施設や出水によってできた本川とつながる水溜りと呼ばれ、水鳥や魚にとって休息や採餌、繁殖の場である。このワンドは、いま河川の自然復元手法のひとつとして大きな注目をあびているのだが、建設省が一連の多摩川の多自然型整備の一環としてこの春竣工したものである。

今や建設省河川局の大きな目玉事業となった川の多自然型整備事業は、全国でさまざまな事例を見られるようになったが、調布のこのワンドの造成は中でも出色のでき映えに思える。なぜなら極めてシンプルな構造であり、人為を感じさせない所が良い。あたかも洪水でえぐられ自然にでき

建設省の多自然型川づくりによって整備されたワンド
(調布市染地地先)

たようでもあり。おまけに伏流水が湧き出し川が息をふき返したような気さえする。ぜひ一度足を運ばれることをお勧めしたい。

●関連する財団の助成研究 (No.は報告書番号)

<学術研究>

①多摩川水系魚類の餌料についての研究

1983年 杉浦 宏 井の頭自然文化園(Na.59)

②増水による河辺植生及び立地変化と復元に関する研究

1984年 曾根伸典 自然環境科学研究所(Na.75)

<一般研究>

①多摩川中流域におけるわき水と本流の水質汚濁の検討

1981年 池島厚子 都立武蔵野北高校(Na.17)

多摩川散歩

●山間の溪流と自然のホタル住む平井川 その2

小山 睦子

平井川の風景は、代田橋を過ぎると日本の川、本来がもつ姿に一変する。水田、丘陵、奥多摩の山並みが溶け合い静かで落ち着いた雰囲気を見せている。この付近では朝夕、カワセミが小枝や浮石にとまり魚を獲る姿によく出会う。夜はタヌキやキツネも出没する。左岸で鯉川が合流し、これより上流の丘陵や沢には、オオタカやトウキョウサンショウウオ、モリアオガエルなどが生息している。また、丘陵の山を背にした静けさのなかに尾崎観音があり、近郷の人々が多数お参りにくる。右岸の崖線及び段丘一帯は、今もなお土器や古代の住居跡が見つかっており、この豊かな自然の恵みのもと、古くから多くの人が住んでいたことがわかる。都が指定した瀬戸岡古墳群や歴史環境保全地域もある。こんな素敵な風景だが、あと1年もすると圏央道（高速道路）の大きなコンクリートの橋脚が平井川の右岸にそびえたち、失われてしまうかもしれない。

日の出橋上流右岸の桜並木は、花見のころは左岸の川北丘陵の新緑とマッチし、風情がある。道を上流へ進むと東光院がある。この裏山からは秋留台が一望でき夜景も素晴らしい。平井橋まで来ると大きな岩盤が出てくる。この橋を境に上流の溪谷美（深い淵）と下流の川を中心とした風景の眺めのコントラストも格別である。しかし、この上流の谷戸沢からは重金属類で汚染された水が流れだしていることが最近わかった。この沢の水源

に、都下27市町のゴミを埋めている日の出廃棄物処分場があるためである。きれいな風景をもつ平井川も、流れが汚染されてしまっただけであまりに残念である。なんとかしたいものだ。

川底からクモヒトデの化石が出土した所を過ぎ、諏訪下橋上流から羽生橋までの約400mは溪谷となる。兩岸に岩がそり立ち、川底も岩盤で別世界に来たような気分になる。これらの岩は2000万年前の地層で、地殻変動で見事に曲がっている。ここから貝の化石もでる。ここが昔海で陸に変化していった膨大な時間の歴史を知ることが出来る。御新造橋を渡って左に折れ、むかい殿橋からはまた溪谷となる。溪谷歩きも運動ぐつを濡らすつもりならばスリルがあり、水の好きな子供たちなら十分楽しめる。溪谷の途中にある御殿橋を横切り幸神社境内から数十m下ったところに、樹齢数百年ともいうシダレアカシデの大樹があり、天然記念物になっており見ごたえがある。春、ここの土手には、一輪草、二輪草などが咲き乱れる。

この上流右岸前方に大きく削られた勝峰山（旧アサノセメント）が見えてくる。左岸に酒屋があり、その脇道を通っていくと「エントモノチス（2億年前の2枚貝）の化石」国指定の天然記念物が発見された斜面がある。これより上流の平井川は、谷間を流れる溪流となり、滝も幾つかあり、夏のはじめには自然発生のホタルが、飛びかう沢がある。釣り堀やキャンプ場があり、夏には多くの観光客で賑わう。松尾・三ツ沢からは登り坂が急になり、40分ほど登ると「平井川の源流」にたどり着く。苔むした岩の下からコンコンと湧き出る冷たい水で顔を洗い咽を潤すと、そのすがすがしさは忘れられない。



私と多摩川

元世田谷区立瀬田中学校教諭 日高万典



日野市潤徳小学校校庭内に流れている向島用水
('93年11月)

1952年（昭和27年）5月、日野町立日野中学校（現日野市立日野第一中学校）に赴任した頃の多摩川は、小河内ダムしめ切り前で、中学生たちは夏を待ちかねて、日野橋らん干の上から、本流に飛び込んで度胸だめしを兼ねて遊んでいたし、私たち独身教師も風呂銭節約とばかりに、石けん箱を持って水泳に行きました。冬の夜、多摩川の土手で、毛布にくるまって星の観測をしていて、警らの巡查さんに不審尋問され、星空の下で泥棒談義をしたことなど、空気も澄み、多摩川は玉川の雰囲気を残していました。

ダムが閉められると水は徐々に減り、水泳後は銭湯へ直行する始末。それでも深い所では背のびしました。丁度その頃、川の周辺都市の、日野・府中・調布・狛江・成城などの街中の大型防火用水や撮影用水池に、マミズクラゲが次々に発生し、新聞に報じられ、小生も調査に走り廻り、「飼育と採集」22巻第1号に経緯を発表し、その縁で東大生物研の故江上先生から多摩川、浅川周辺のメダカ調査を依頼されたりしました。1958年（昭和33年）既にメダカはいませんでした。中学生の報告で「新井・堀の内の田圃でメダカの大群発見」で飛んで行くと、モツゴ（クチボソ）の子供集団ばかりで、タニシもなく、農薬害は段々ひ

どくなりかかっていた。今から35年も前の話です。そんな馬鹿なと思われるでしょうが調査事実です。

メダカの御縁はやがて1990年世田谷区深沢で関東型メダカの発見となり、その池ではどうやら絶滅したようですが、子孫は新潟大学理学部の水槽で増殖している筈です。江上先生のお弟子さんの酒泉先生が飼育して下さっています。危機一髪間に合ったわけです。

1959年世田谷区立烏山中学校に転勤し、多摩川との縁は区立瀬田中学校転勤まで20年間切れてしまいます。この間の多摩川は、中学生に遊泳どころか近づくことも注意されるようになりました。川は汚れ、堤ではアベックを襲う殺人事件まで起きていて、川のごく近くに住む生徒が、ウグイを知らないという次第で、20年前葉桜の頃川面を赤く染めてウグイの大群が、川瀬を求めて集まる様など想像もつかない事になっていました。

生物の「種」を知ってもらうには、指導者に実物を、手で触り、棲み分けを目で見えて教えられる必要があります。多摩川近くに再び戻って来て、私の研究は、「多摩川のウグイを教材化」できないものかから始まり、「中流魚をコンパクトな手製水路で増殖させる」ことに決めました。とうきゅう環境浄化財団の資金援助は実に有効でした。ごく簡単な水路と浄化装置と人工川瀬で、ウグイは増えますし、水も澄みマイクロシステス（アオコ）の発生も押さえられます。

11月12日の多摩川視察に参加して、井上、三島両先生の示唆ある話、それにも増して潤徳小学校に造られたミニワンドには感心しましたが、水が濁っていたことは残念でした。校庭内であるので、電気配線が可能ですし、僅かの施設で水の浄化ができる筈です。それこそ実験して、計算して、環境浄化財団に援助をお願いすれば、いつも美しい澄んだ水のミニワンドが観察できるのにと小生に関係あることだけに、実現して欲しいものだと思われたことでした。生徒も興味を倍加させることでしょう。

よみがえ

甦れ！多摩川

■ 平瀬川に行く（その2）

財とうきゅう環境浄化財団
専任研究員 山道省三

前号で平瀬川を取りあげその現状をご紹介したが、この10月思いもかけず、平瀬川の源流部にあたる川崎市宮前区菅生町の人たちの訪問を受けた。この項を読んで来られたわけではなく、全くの偶然である。その住民の方々のお話しは、源流部の未改修部分がすでに用地買収も終りつつあり、左支川や上流部で行われてきた工法と同様の改修が始まりそうだ、何とかならないものだろうか？というお話しだった。先にご紹介したように、平瀬川は源流部を残し、ほぼ全川にわたってコンクリートブロックによる切り立った護岸となり、河床に降りることすら容易ではない。これと同じ構造で源流域に残されたわずか1.2km程の区間を改修されると、もうかつての平瀬川は跡かたもなくなる。その危機感を持ちながらも、どうすれば良いか対応の術がなかったとの事であった。皆さん40代50代の男性の方で、いずれもかつて平瀬川で遊び育った人達であった。目前で、むかし自分達の遊び場だった川が記憶の痕跡すら残さぬ水路に変わっていく姿を見るのは、たまらないものである。何とかいまの姿をとどめるような改修法はないものだろうか。自分たちは全力を尽くしてこの川を守りたいとの真摯な話はとても他人事とは思えないものだった。

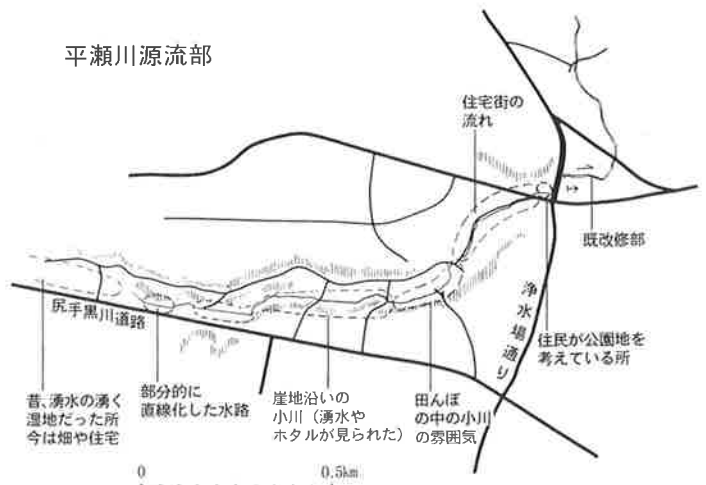
私は、その相談に対して事業主体者に事業の進捗状況を良く聞き、同じテーブルで話し合いができるよういくつかの経験をお話した。そして、住民のまじめな要望を訴え続けるためにも定期的な勉強会を行ない、その過程で市にも他の住民にも現状の問題点を理解してもらい解決の糸口をつかんだ方が良くとお話した。

言い出しっぺの責任として第1回目の講師をと頼まれ、その前に現地を歩くこととなった。既に日没の薄暮の中で見た源流部

は、おそらくほんの少し前まで、林に囲まれた谷戸田を流れる素掘の小川だったことを容易に思わせる。そして子供が遊ぶには手頃な川なのである。地元の住民の方々の話にはあたかも昨日のでき事のような生き生きとした思い出が込められていた。

それにしても市の基本計画を見る限りにおいて感じられることは、本当に現地を詳しく調べて計画したのだろうかという事である。これは何も川崎市だけの事ではなく、全国の自治体にも多くある。つまり、一級河川といえど、各自治体に管理権がある源流部は多くの場合、三面張のコンクリート水路とされ、湧水も入らない、生きものも棲めない川になってしまっている。平瀬川もその例にもれず川ではなく雨水排水幹線計画との位置づけである。おそらく市の担当者は地元にとって良い事と判断して雨水排水路を計画したのであろうが、そこで生まれ育った人たちの気持ちは、もっと深刻で数十年の川とのつきあいの中で生まれた人生の、あるいは我が街の拠り所でもあるのである。川は単なる雨水排水路ではなく、自然も文化も住民の思いも多様で多層に積み重なった空間である。川の死命すら左右する源流部のあり方は、もっと時間をかけ河川管理者も住民も議論を尽くしていく必要がある。これは平瀬川全体の問題であり、そこに住み続ける人たちの共通の課題でもある。

平瀬川源流部



《 “多摩川およびその流域の環境浄化に 関する調査・試験研究” 募集 》

当財団は昭和50年から表記研究の公募を毎年行ってきました。既に294件の研究に対して助成金を交付し、230件の研究成果を得ることが出来ました。

平成6年度も引き続き首都圏における「多摩川およびその流域の環境浄化に関する基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究」を下記のとおり募集いたします。

記

1. 研究対象者

学識経験者の方はもちろん、一般の方でも研究に意欲のある方であれば、どなたでもご応募いただけます。

2. 研究対象テーマ

- (1) 産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究
- (2) 排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査および試験研究
- (3) 多摩川およびその流域における水の利用に関する調査、試験研究
- (4) 多摩川をめぐる自然環境の保全、回復もしくは環境創造に関する調査、試験研究

公募締切日 平成6年1月17日

応募についての詳細は下記事務局までご連絡下さい。

〒150東京都渋谷区渋谷1-16-14(渋谷地下鉄ビル内)

電話 (03)3400-9142 (財)とうきゅう環境浄化財団

年度別助成件数・助成金額

| 年 度 | 研究区分 | 助成件数 | | | 助成金額 (千円) |
|-------------------|------|------|-----|-----|--------------|
| | | 新規 | 継続 | 計 | |
| 昭和50年度 | A類 | 119 | 118 | 237 | 372,713 |
| | B類 | 59 | 41 | 100 | 41,011 |
| 昭和60年度 | 計 | 178 | 159 | 337 | 413,724 |
| 昭和61年度 | A類 | 6 | 20 | 26 | 45,851 |
| | B類 | 9 | 9 | 18 | 11,585 |
| 昭和61年度 | 計 | 15 | 29 | 44 | 57,436 |
| 昭和62年度 | A類 | 9 | 15 | 24 | 42,704 |
| | B類 | 6 | 12 | 18 | 9,932 |
| 昭和62年度 | 計 | 15 | 27 | 42 | 52,636 |
| 昭和63年度 | A類 | 10 | 13 | 23 | 24,878 |
| | B類 | 4 | 10 | 14 | 11,167 |
| 昭和63年度 | 計 | 14 | 23 | 37 | 36,045 |
| 平成元年度 | A類 | 8 | 12 | 20 | 38,652 |
| | B類 | 3 | 5 | 8 | 9,334 |
| 平成元年度 | 計 | 11 | 17 | 28 | 47,986 |
| 平成2年度 | A類 | 10 | 11 | 21 | 37,614 |
| | B類 | 6 | 5 | 11 | 10,666 |
| 平成2年度 | 計 | 16 | 16 | 32 | 48,280 |
| 平成3年度 | A類 | 8 | 15 | 23 | 32,162 |
| | B類 | 6 | 6 | 12 | 7,861 |
| 平成3年度 | 計 | 14 | 21 | 35 | 40,023 |
| 平成4年度 | A類 | 7 | 14 | 21 | 37,394 |
| | B類 | 5 | 9 | 14 | 10,544 |
| 平成4年度 | 計 | 12 | 23 | 35 | 47,938 |
| 平成5年度 (10月末現在) | A類 | 10 | 11 | 21 | 35,632 |
| | B類 | 9 | 7 | 16 | 12,118 |
| 平成5年度 (10月末現在) | 計 | 19 | 18 | 37 | 47,750 |
| 合 計 | A類 | 187 | 229 | 416 | 667,600 |
| | B類 | 107 | 104 | 211 | 124,218 |
| 合 計 | 計 | 294 | 333 | 627 | 791,812 |

※ A類は学術研究、B類は一般研究

〈第二次研究助成選考結果〉

去る10月4日第35回定時選考委員会を開催し、平成5年度(第2次)研究課題の選考を行いました。今回選考された研究は学術研究、一般研究各2件です。研究課題は次のとおりです。

| 研 究 課 題 | 代表研究者 | 所 属 |
|--|---------------|-----------------------------------|
| (学術研究) ●奥多摩湖における浮遊微生物群集の動態と物質循環に果たす役割 ●多摩川底泥中に含まれる鉄の化学状態を指標とした環境特性評価に関する研究 | 占部城太郎 松尾基之 | 東京都立大学理学部助手 東京大学教養部化学教室 助教授 |
| (一般研究) ●平井川における、いわゆる背曲がり魚の調査－発生状況、病理発生－ ●現地観測に基づく日野市の水環境保全に関する水文学的研究 | 布谷和代 山本由美子 | みずすましの会会員 浅川勉強会代表 |

水郷水都全国会議たま大会に参加して

今年は第9回である。水や川にゆかりのある都市を舞台に住民の手によって毎年行われており、今回は多摩で開催され当財団も後援した。第一日(8/28)は多摩地域を中心とする16ヶ所で行われたフィールドワークとその後の都立大学で行われた全体集会、レセプション。第二日(8/29)は都立大学での分科会、映画、全体集会という構成で行われた。

統一テーマは「序章・自由水権運動」ー水は巡り、時がめぐり、人がめぐりあうーである。

フィールドワークはそれぞれの地域で水をめぐる環境問題、自然保護の活動をしておられる市民グループの手によって企画実施された草の根的手作りのイベントである。

全コースのテーマを紹介することによってこの大会の全貌をご理解いただきたい。

1. 生きている野川～都市河川の保全と市民運動
2. 名水の保全と水みち～水循環と汚染～

国分寺崖線、真姿の池湧水群

3. 北多摩の丘と川の道～荒川水系水源の崖線
4. トトロのふる里、狭山丘陵の水と緑
5. 浅川の作った街～都市河川と生き物の賑わい
6. 「まちに生きる水辺」

日野、向島用水、多自然型工法

7. 高尾山が危ない!!
～水脈、生態系を断ち切る道路計画

8. 鶴見川～源流の森と多摩丘陵～

9. 多摩ニュータウンの「光」と「影」

酪農、谷戸田、長池、大栗川、寺沢川

10. 大都市の水源林と里山の形づくるもの
11. 秋川流域～水源地のリゾート、都市公園化

12. 平井川流域～ごみの一極集中と河川改修～
13. 上野台地の水と不忍池～藍染川の記憶～
14. 東京の母なる川、隅田川
15. 都市の水と緑と歴史を守るために!!

国分寺崖線、野川、次太夫堀公園

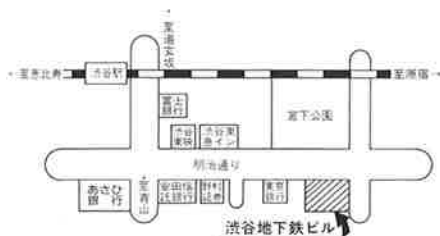
16. 建設省の新しい川づくり

日頃自分たちの住んでいる地域を離れて参加したフィールドワーカーがそれぞれ現地で行った自然が失われつつあるのかを直視し、地元で環境回復のために努力しておられる人々と共感する。そういうプランが16も集まり画期的な催しとなった。フィールドワーク終了後それぞれのコースについて代表者による成果報告が行われた。後日出版される正式の報告集が期待される。レセプションでは昼間の行事の興奮も覚めやらず参加者の交流が盛り上がりを示し、日本各地から遠路はるばる参加された人々も満足されたのではと思われた。

2日目は都立大の会場で6つのテーマからなる分科会が行われた。「水とくらす」、「水とあそぶ」、「いきものたちと水辺」、「めぐりくる水」、「流域ネットワーク」、「水辺へのまなざし」といったテーマでパネラーと参加者との双方向の交流のある楽しくかつ真剣な討論が行われた。会議のしめくりとして全体集会が行なわれ、「たま宣言」が石田幸彦事務局長より朗読され2日間にわたる会議が終了した。156団体540人が現場を共有することを通じ、共通の認識を得るワークショップという新しい試みにより充実した成果を得ることができたのは、舞台裏を支えた事務局の方々の努力によるものと心から感謝いたしたい。

芳村重徳

- ・発行日 平成5年12月1日
- ・編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団
〒150 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル内)
TEL (03)3400-9142
FAX (03)3400-9141



*印刷所 雄文社 〒336 浦和市常盤9-11-1 TEL(048)831-8125